

まちづくり懇談会 結果

日時：令和元年6月24日（月）
午後6時30分～8時30分
会場：コミセン第1会議室

～テーマ「産業」「観光」～

Aグループ

【前半】

○参加者 6名

○懇談内容

ジビエ：国も推奨している、都会の人が好んでいる
加工が拵がらない、会社組織化したらどうか

道の駅：トラック運転手にとって、道の駅はありがたい。（休憩、トイレ、飲食）
天馬街道、釧路方面からの交通量を考えると豊似市街地が適地思う。
特産品を置ける。仕事が増える。特別なものがないと人は来ない
トラックを考えて大きい駐車場は利便性がある。（大樹コスモール狭い）

サンタランド：サンタで盛り上がることできる。サンタは良いイメージである。
突出したイベントやるべきだ。クリスマス時期に何もやらない。
場所がわからない。入口わからない。大きい看板必要

サンタの家：2階からの景色が良いので飲食（軽食）できるとよい。
大丸山森林公園：遊具が老朽化している。万里の長城を改修して再利用したい。
公園を整備したらアクティビティに利用できる。

サーフィン：よい波で人が集まるのに、トイレ、カフェがない
サーファーの移住を可能にするために空き家の利用できないか。

仮想盆踊り：現在の場所では地元の人しか集まらない。
車輛が通行する場所でやれば、人が集まりやすい。
イベント周知を車輛通行中に見える場所に掲示したらどうか（消防庁舎）

アウトドア体験：自然はあるけどインストラクターがいないので、広尾町に住み始めた
人は体験できるまでに時間を要する。
好きな人はいるが、つてが無いので楽しめない。

キャンプ場：整備していけばアウトドアにつながる。

グランピングにはよいと聞いている。 トイレの整備が必要

栽培漁業：マツカワを中間育成しているが水揚げは増加している。

販路拡大必要である。 漁組とコラボして販路拡大してはどうか。

若者に広尾の味を知ってもらう。

【後半】

○参加者 5名

○懇談内容

- ①観光は2次産業であり、そのために何かがあれば人は集まる。
- ②広尾町を知ってもらうための周知、PRが必要である。
- ③広尾町の食材、今あるものを提供している。情報提供もしている。
- ④「北海道」、「十勝」のアドバンテージはある。
- ⑤送った商品は好評なので、広尾に行きたいと思える工夫が必要である。(広尾でしか食べられない)
- ⑥観光客が行きたい店がない。
- ⑦地場産品が強くないとダメ、継続していけること大事。
- ⑧素材は良いので、見せるプロが必要である。
- ⑨広尾と言えば○○○がない、○○○を食べられる店が必要
- ⑩広尾に来てどうしても食べたいものがないとダメ
- ⑪地元の味で食べてほしい
- ⑫熊がに⇒呼び水、入口になればよい。
- ⑬広尾に住みたい環境が必要
- ⑭広尾で起業したいとなる支援、移住したいと思う支援が必要
- ⑮一つ良いものがあって、それに繋がっていく仕掛けが必要
- ⑯水族館の復活、マツカワを見せてもよいのでは
- ⑰キャンプ場+水族館+釣り+食⇒観光客
- ⑱管内で海と山があるのは広尾町だけ
- ⑲シーサイドはロケーションとして良い、海の見えるレストランで地元の味を提供
- ⑳今あることをPR、発信すべきである。今あるもので人を呼べる。
- ㉑イルミネーションを一か所に集めてはどうか
- ㉒サンタで何かをやる。